

東京都における外来水生生物防除でのクサガメの扱いの変化

佐藤 方博

(認定NPO 法人 生態工房)

1. はじめに

疋田・鈴木 (2010) 及び関連する研究によってクサガメの外来性が広く知られるようになり、図鑑の記述も変化してこの知見が浸透した。東京都ではレッドリスト 2010 年版でクサガメが従来の C ランク (国の希少種に相当) から DD (情報不足) に変更され、2020 年版ではレッドリストから除かれている。

クサガメによる生態系被害としては主に、(1) 近縁種に対する遺伝的攪乱、(2) 生態的地位が近い種との競合、(3) 底生生物等に対する捕食が考えられる。また都内の生物相に関する地域自然誌資料ではクサガメの生息記録の初出は 1960 年代であった (佐藤ほか 2015)。

クサガメに対する社会の認識が変化してきた中、活動現場で捕獲されるクサガメをどのように扱うかという判断が求められる。本発表では都内で行われた外来水生生物防除活動におけるクサガメ捕獲時の扱いとその推移をとりまとめて報告する。

2. 方法

都内で行われた外来水生生物防除活動での捕獲結果を調査し、クサガメが捕獲されていた場合の扱いについて記録した。使用したデータは、捕獲結果が公表されている場所・団体をインターネットで検索したほか、演者の所属団体が実施した活動のデータも用いた。データに不明点があった際には適宜聞き取りを行った。

クサガメが捕獲されていた場合は年度ごとに、クサガメの捕獲数と扱い (防除、保護) を記録した。扱いの区別は、野外から取り除いた場合 (殺処分、管理下への収容のいずれも) を「防除」、捕獲場所や他の水域に放逐した場合を「保護」とした。

さらに、活動が継続的に行われていて年間の捕獲努力量が大きい 3 ヶ所 (光が丘公園、石神井公園三宝寺池、井の頭恩賜公園) について、年ごとの捕獲数の推移を整理し、防除効果について考察した。

生物相調査や自然観察を目的とした捕獲活動については、捕獲された外来種を防除しない場合があること、公表されている資料からは捕獲後の扱いが不明であることから、調査対象としなかった。

3. 結果及び考察

(1) クサガメの扱いの変化

東京都で行われた外来水生生物防除活動で、1998 年度から 2023 年度の期間にクサガメが捕獲されていたのは 29 ヶ所だった (表 1)。このうち、クサガメの捕獲実績が都内でクサガメ防除が開始される前の 2011 年度までだった 3 ヶ所を除く 26 ヶ所についてクサガメの扱いを整理した。

クサガメが捕獲された 26 ヶ所の水域は 18 区市に分布していた。クサガメを捕獲活動当初から「防除」していたのは 15 ヶ所、「保護から防除」に転換したのは 9 ヶ所、「保護」のみは 2 ヶ

所だった。「防除」と「保護から防除」を合わせると、クサガメを防除していた場所は24ヶ所(92.3%)だった。

2012年度まではすべての場所でクサガメの扱いは「保護」だった。2013年度に初めて防除が行われ、この年を境に多く活動地が「保護から防除」に転換した。また新規活動地で当初からクサガメを防除する例が増加した。

表1. 東京都の外来水生生物防除活動におけるクサガメ捕獲時の扱い
数字は捕獲数。作業をしたが捕獲されなかった年は0とした。
捕獲数不明、またはのべ捕獲数の場合には○とした。

凡例

防除 保護

場所	年度																									
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
都立光が丘公園	○	○	○	31	48	76	45	93	121	119	112	118	127	135	150	131	41	9	4	3	6	1	4	1	3	2
都立井の頭恩賜公園		26									22	140				19	○	40	45	26	11	1	2	0	1	4
都立善福寺公園							50	49	27	35										4	8	14	19	36	9	11
玉川上水										11	10	4														
都立石神井公園三宝寺池										75	76	73	134	138	161	190	99	82	25	34	12	9	9	2	2	6
鍋島松濤公園											30					17										
北山公園・北川												1				13	10	8	1	5	2	0	1	0	1	
春の風公園											5			○												
都立狭山公園												2				○	○	1	○	○	○	○	0	0	1	0
三鷹丸池の里公園													3												0	
都立神代植物公園														50	40	39	19	30				6	1			
都立石神井公園石神井池															14	13	17	17	22	3	3	8	25	21	5	
薬師池公園																	30	8								
新江戸川公園・肥後細川庭園																	1					0				
金山頭節池																		1								
都立和田堀公園																				41				5		
都立浮間公園																				2						
都立林試の森公園																						10	1			
都立小金井公園																							14			
占奪園																							1			
都立野川公園																								3		
都立武蔵野の森公園																								3		
都立狭江恩賜公園																								4		
都立水元公園																								1	4	
都立水元公園小合瀨																								59	40	51
駒場野公園																								0	2	0
東京港野島公園																								3	1	4
有栖川宮記念公園																									22	
ニッ池公園																										1

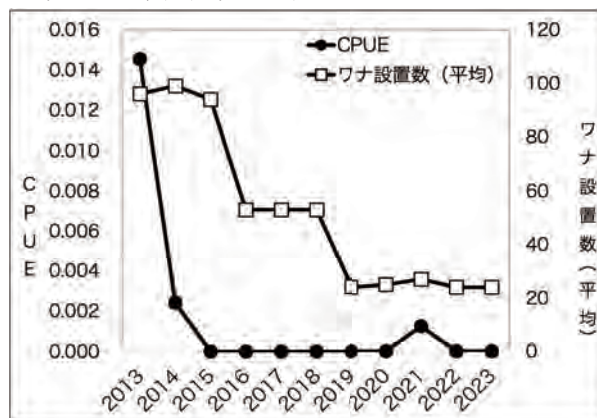
(2) 防除の達成具合

継続的に活動が行われ、年間の捕獲努力量が大きい光が丘公園、石神井公園三宝寺池、井の頭恩賜公園について、年ごとのクサガメの捕獲数を CPUE（ワナ単位の捕獲数）に換算し、防除の進捗について考察した。

これらの3ヶ所では、クサガメ防除を開始した初年に CPUE が最も高く、2年目に減少した。3年目はさらに減少し、以降は横ばいとなった。これらの3ヶ所では使用しているワナ数や作業日数が多く、クサガメに対して有効な防除圧がかかっていたと考えられる。

一方、これらの場所では防除を8-11年間継続しているが、少数の個体が捕獲され続けている。その要因としては、トラップシャイ個体と、新たな投棄個体が存在することが考えられる。

a. 光が丘公園（遮光カゴ）



b. 石神井公園 三宝寺池（カニカゴ）

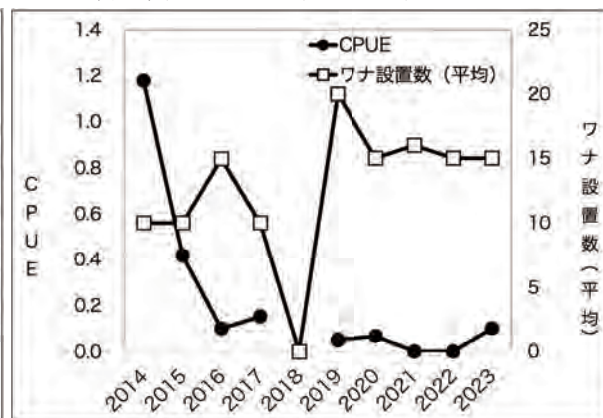


図1. 光が丘公園、石神井公園三宝寺池でのクサガメの CPUE の推移